

彩の国男声コーラスフェスティバル2016に出演する

2016年10月8日(土)、彩の国男声コーラスフェスティバル2016が、秩父ミューズパーク音楽堂で開催された。(通称；男フェス。又は、おとうさんコーラス大会)

今年は、24団体と合同合唱団の演奏が行われた。志木グリークラブは、13番目に出演し、初谷敬史先生の指揮で、“スコットランドの釣鐘草”と“ロッホ・ローモンド”を演奏した。初谷先生が指揮をされるのは、6年振りになる。(初谷先生には、東京芸術大卒業後から10年間指導を受け、志木グリークラブの基礎を作っていた)

演奏した2曲は、お馴染みの曲であるが、編曲者が初谷先生の知り合いの方で、なかなか手の込んだ編曲になっている。

「スコットランドの釣鐘草」の練習は、7月19日開始した。2曲の本番までの仕上げは、初谷先生のご指導回数7回で行わなければならない。まず、「スコットランドの釣鐘草」の譜読みから入ったが、音程としては特別音が取れない音は無いが、歌詞の発音に難しいところが、たくさん出てきた。スコットランド訛りで発音するところが、随所に出てくる。これに皆苦労した。例えば、「your High land」を「ヨー ヒーランド」と発音する。そもそもこの歌は、女性が、戦争に行った恋人を待ち焦がれる乙女心を歌っているのだ。(後掲の歌詞参照)

我々お爺さん達は、人生経験豊富であるが、恋愛経験豊富な者は、多分ほとんどいない筈だ。初谷先生が、歌って見本を示してくれるが、歳の差、恋愛経験の無さは、如何ともし難く最後まで克服出来なかった。先生から示された楽譜には、事細かに指示の記号が書かれている。

例えば、全体を軽く・甘く、fとpp、crescendoとdecrescendo、rit等々。

また、「ロッホ・ローモンド」の楽譜には、全体をMorerateで、指示記号は、sub P、poco rit、Poco accel、atemp、息交じりの声で軽く、なめらかに等々。

しかも、今回暗譜で演奏するので、歌詞は勿論のこと、音と指示記号を全て頭に入れなくてはならない。2歩歩けば、殆どのことを忘れる団員にとって、このことは、地獄の苦しみであった。それでも、寝ても起きてても、演奏のことばかり考え、何とか恰好をつけることができた。(つもり)ここで、演奏した2曲の歌詞を紹介する。

♯「スコットランドの釣鐘草」の歌詞

Oh Where, tell me where, is your Highland laddie gone?
Oh Where, tell me where, is your Highland laddie gone?
He's gone with streaming banners where noble deeds are done,
And it's oh! In my heart I wish him safe at home.

Oh what, tell me what does your Highland laddie wear?
Oh what, tell me what does your Highland laddie wear?
A bonnet with a lofty plume and on his berest a plaid,
And it's in my heart I love my Highland lad.

ああ 何処へ 教えて下さい あなたの高地の若者は 何処へ行ったのか
ああ 何処へ 教えて下さい あなたの高地の若者は 何処へ行ったのか
あの人は たなびく旗とともに 気高いことの行われる地(戦争)へ行ったのです

そして ああ！ 私の胸のうちでは あの人が無事に戻ってくるよう願っています
ああ 何を 教えて下さい あなたの高地の若者が 身に着けていたものを
ああ 何を 教えて下さい あなたの高地の若者が 身に着けていたものを
鳥の羽根聳える ボンネット帽をかぶり 胸には長い肩掛けを
そして ああ！ 私の胸の内で 私は高地の若者を愛しています

井「ロッホ・ローモンド」の歌詞

By yon bonnie banks,
And by yon bonnie braes,
Where the sun shines bright on Loch Lomond,
Where me and my true love were ever want to gae,
On the bonnie, bonnie banks of Loch Lomond.

Refrain :

Oh ! ye' ll take the high road
And I' ll take the low road,
And I' ll be in Scotland afore ye
But me and my true love will never meet again
On the bonnie, bonnie banks of Loch Lomond.

'Twas then that we parted
In yon shady glen,
On the steep, steep side of Ben Lomond,
Where in deep purple hue
The Highland hills we view,
And the moon coming out in the gloaming.

あそこの美しい土手で
そして あそこの美しい斜面で
太陽が燦々とローモンド湖に照っている場所で
僕ら二人はいつも歩いていた
ローモンド湖の美しい 美しい土手で

繰り返し

おお 君は高い道を行き
そして 僕は低い道を行こう

そして 僕は君より先にスコットランドに着くだろう
しかし 僕ら二人は もう二度と会うことはないだろう
ローモンド湖の美しい 美しい土手で

僕は 僕らが別れた
影になった谷間を思い出している
ローモンド山の急な斜面にあった
あそこは僕らがパープル色に染まった
高地の丘を眺め
月が夕闇の中から 輝いて昇る場所だ

いよいよ、本番の日を迎えた。

午前7時、柳瀬川駅前サミット隣に集合し、いつものとおり、ドン・キホーテ男声合唱団と一緒にバスに同乗し秩父に向かった。

今年のステージリハーサル場所は、野外ステージとなった。7分間のステージリハーサルを終え、秩父ミューズパーク入口近くの小広場で練習を開演時刻12時直前まで行った。そこで、初谷先生から「集中力を保つため昼食抜きで演奏する」との指示が出た。(エッ！。腹減るなーとビックリ！)

昼食抜きの効果はバツグンで、頭はクリアーで、下腹に力が入り、出だしのテノールの音もきまった。1曲目の「スコットランドの釣鐘草」では、練習の時殆ど出来なかったテンポの速い触りのところもバッチリ出来た。「ロッホ・ローモンド」では、3章節目からのトップ・テノールとベースの外声部の動きもピッタリ合っていて、その続きの早口言葉のような触りのところも4パートが揃っていた。

おとうさんコーラス大会に限らず、何処の本番でもいえることであるが、我が団は、本番になれば、皆がついつい張切って声を出す傾向がある。初谷先生に練習時にいつも言われる「他のパートを良く聴き、半分位の声量で、ハーモニーを大切に歌いなさい」のことをスッカリ忘れてしまう。(後日、録音テープを聴いて分かったことであるが) 今回もその癖は直らなかった。

第1部の出演団体全部の演奏が終わると、場所を野外ステージに移して、お待ちかねの第2部懇親会である。第2部では、ビールや地酒の秩父錦を手に正に飲めや歌えやの 我々が、第1部以上に生き生きする至極の時である。出演2～4団体をグループに編成し、男声合唱の定番「乾杯の歌」「いざ起て戦人よ」「柳河」「秋のピエロ」「雨」「ふるさと(オナーティン)」「遥かな友に」「見上げてごらん夜の星を」等々を(歳を忘れて)熱唱する。(我々が若返る瞬間だ！)

宴たけなわであったが、お酒が入って良い気分になったし、空腹も満たされたので、懇親会を中座し帰途に着いた。バスの中では、まだ歌い足りてないのか、ドン・キホーテ男声合唱団の皆と男声合唱定番曲を歌っている内に、柳瀬川に着いた。

来年は、11月4日、川越市で開催予定である。また、その日に向かって練習開始だ。

(和氣 敏夫記；2-Tenor)



ちちぶ芸術祭参加事業

彩の国男声コーラスフェスティバル2016



© ANOHANA PROJECT

平成28年10月8日（土） I. 講習会10：00開始
II. 演奏会12：00開演

於 秩父ミューズパーク 音楽堂

主催 埼玉県合唱連盟

共催 全日本合唱連盟関東支部・秩父市

協賛 *i i c h i k a*・矢尾百貨店